

林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会と高速育種運営会議を開催

9月～10月に、林野庁、林木育種センター、都道府県等の連携による林木育種の推進を目的として、北海道、東北、関東・中部、近畿・中国・四国、九州の全国5ブロックにおいて、林野庁・森林総合研究所共催の林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会を開催しました。

近畿・中国・四国、九州ブロックでは特定母樹への関心が高く、原種配布の要望が多く出されました。

北海道、東北、関東・中部ブロックではカラマツの造林地が伐期を迎え、需要も高いことから、苗木の増産が求められています。

また、この会議と併せて各ブロックで高速育種運営会議を開催しました。



9月16日に開催した関東・中部ブロック会議育種分科会

一般公開「親林の集い」を開催

10月25日(土曜日)、一般公開「第19回親林の集い」を開催しました。

林木育種への理解を深めていただくとともに、地域との交流を図るために行っている行事で、今年は天候にも恵まれ、約1,100人の方々にご来場いただきました。

育種センターの研究を紹介する展示や案内ツアー、工作、クイズ、迷路などのほか、地域の皆様のご協力により鼓笛隊、和太鼓、吹奏楽の演奏も行われ、楽しい秋の一日となりました。



林木育種センターの植物紹介

林木育種センターで研究・保存している植物をご紹介します。

クロビイタヤは、北海道の西南部と本州の東北地方北部および中部地方の内陸部に分布するカエデ科(最新の分類体系ではムクロジ科)の高木です。波打つような粗い切れ込みの入った葉が特徴的で、メープルシロップの原料になるサトウカエデに似ています。

日本は面積の割にカエデの仲間の種多様性が高い地域で、二十数種の自生が知られていますが、クロビイタヤは其中でも比較的珍しい部類といえるでしょう。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)の指定を受けている他、5つの県のレッドリストに名前が挙がっています。まとまった数の成木を観察できる場所は少なく、開発の影響を受けやすい溪畔林・河畔林を好むこともあって、将来の衰退が心配されています。こうした現状を鑑みて、林木育種センターでは本種の生息域外保存に取り組んでいます。



文責・イラスト：
遺伝資源部 保存評価課 大谷雅人

クロビイタヤ

学名: *Acer miyabei*

表紙タイトル写真は、平成19～23年に行った
遺伝子組換えポプラの隔離ほ場での栽培試験



林木育種情報 No.17

平成27年1月7日発行

独立行政法人 森林総合研究所 林木育種センター

〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL : 0294-39-7000(代)

FAX : 0294-39-7306

ホームページ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>